日本と朝鮮

2021. 5

愛知版 No.449

＊今月の花　大根の花

大韓民国 光州からの通信

『歴史正義』の実現 もっと、前へ

社団法人「日帝強制動員市民の会」設立趣旨文

『勤労挺身隊ハルモニらと共にする市民の会』（事務局＝韓国・光州）が、この四月、社団法人「日帝強制動員市民の会」に組織移行した。なお、移行過渡期に当たり、従来の『勤労挺身隊ハルモニ～市民の会』の活動は、今年度中続ける、という。

わが国は日帝による強制占領期間、植民支配により途方もない苦痛と試練を経験した。特に日帝は、帝国主義侵略戦争を遂行するために概略、７８０万人に達する朝鮮人を不法に国の内外に強制動員した。強制動員は日本政府が国家権力を利用した人権侵害行為で重大な戦争犯罪であり、人道に反する罪だ。

残念なことに日帝から解放されて七六年も経つ今まで、日帝強制動員問題は依然と解決されず、被害者の苦痛と怨恨に満ちた絶叫もまた続いている。

その責任は全面的に、加害者であり過去植民支配に対する謝罪と賠償を拒否している日本にある。日本は歪曲された歴史認識を基に、今まで強制動員事実を否定して何らの謝罪表明をしないでいる。

韓国政府もまた、その責任から逃れられない。屈辱的な韓日請求権協定を結んで、被害者の権利救済に困難を招いただけでなく、裁判所で賠償判決が下されているにも関わらず、日本政府を相手にした外交的努力は、中途半端な態度で一貫している。

この間、数多くの被害者が死亡し、生存者もほとんど高齢で病魔に苦しめられている。このような状況に直面して、今や過去に被害者が体験した歴史的苦痛と真実を次世代に正しく伝承することは、わが社会の重くて重要な課題になった。被害者が皆死亡したとしても、歴史的事実は決して消えないからだ。

忘却した記憶と放置された歴史を復元し、保存・継承することは過去の歴史的過誤と不幸をくり返さないためである。歴史を忘れた民族に、明日はない。誤った過去歴史の清算なしに、歴史の正義も東アジアの平和もない。

今日私たちが社団法人「日帝強制動員市民の会」を設立しようとする理由は明確だ。

社団法人「日帝強制動員市民の会」は日帝強制動員被害者の被害に対する救済と人間の尊厳性回復のための諸般の活動を通じて、歴史の正義を実現することにあらゆる努力と労苦を尽すだろう。強調するが、強制動員被害者に対する謝罪と賠償は問題解決の終わりではなく、人権が尊重され、再び侵略戦争が再発しないようにする、人類共通の課題であり出発であるからだ。

私たちはまた、歴史的真実を隠して忘却しようとする日本に立ち向い、「第２の記憶闘争」を今から力強く始めて行くことだろう。被害者の苦痛と歴史的真実を記憶・保存し、現在を越えて今後の未来世代につなぐための努力に、あらゆる情熱をつくすつもりだ。

最後に正義と人権、平和のために闘う、日本等各地の平和運動団体とより強く手を握って進むだろう。社団法人「日帝強制動員市民の会」は、単純に過去に留まらず、人権・平和メッセージを発信する国際連帯拠点の役割を自認することで、過去から現在に、現在に継いでまた再び未来と国際連帯に進む新しい歴史実践の典型を創り出すだろう。

私たちの出発は依然、その日に根を下している。

二〇〇九年三月十二日、素手から始まった「勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会」が市民たちと共に歴史を作ってきたように、私たちは歴史の正義実現のより大きな歩みのために再び空の原っぱに出る。

ただ恐れることは歴史だけ、私たちの前に置かれた道が明るい暗いと打算することはしないだろう。

第２の「歴史正義」の実現、第２の「記憶闘争」は今から再び始まる。

二〇二一年四月二〇日
社団法人「日帝強制動員市民の会」

【李洋秀氏・訳】

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの通信

【編集者まえがき】本「論評」欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係を含む諸見解を理解できるように、同国の対外文化連絡協会（ピョンヤン）から日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料を紹介する欄です。

論評

罪悪に罪悪を重ねる日本

朝鮮対外文化連絡協会

【朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤン 2021年5月19日 発】
原文　日本語
タイトル　原文のまま

最近、日本政府は国会議員の質疑に対する返答で過去朝鮮民族に犯した強制徴用犯罪に関する立場というのを発表しました。

その内容を見ますと、日本は「従軍慰安婦」「強制徴用」という表現が強制性を帯びるから「従軍」「強制」を削除することにしたということであります。

それだけではなく「強制連行」「強制労働」と表現するのも不適切であると強弁しました。

右翼勢力は教科書検定の内容にもこのことを反映しようとしています。

これは日帝がかつて朝鮮人民に犯した特大型反人倫的犯罪を「自発的なこと」「便所構の歴史」にすり替えて国家的責任を免れようとする策動の延長であります。

日帝が20万名の朝鮮の女性たちを性奴隷として戦場を連れ歩きながら蹂躙し、残酷に殺したということはすでに暴露された事実であります。

八四〇万余名の青壮年を強制連行し、一〇〇万余名を虐殺した事実も歴史に記録されています。

日本が、日帝の戦争犯罪を告発する「従軍」「強制」という表現を削除するからといって犯罪の真相は決してなくなることも、隠されることでもありません。

日帝が朝鮮民族に犯した犯罪は人類史上類例のないもっとも悪辣な特大型反人倫的犯罪、国家犯罪であります。

河野元内閣官房長官も「慰安婦」の募集は軍隊の要請を受けた民間業者が基本的に実行したが強制的な方法で行われ、官吏たちが関わっていると言いながらお詫びの談話を発表しました。

日本が、過去日帝が犯した特大型反人倫的犯罪の厳重さを弱化させようとすればするほど世界に自分らの道徳的な低劣さと厚かましさだけをさらけ出すことになるでしょう。

【慰安婦】
藤田文武氏(維新、衆院)政府は「従軍慰安婦」ではなく「慰安婦」との表現が適切との答弁書を閣議決定した。教科書の記述も変更すべきだ。
首相　政府の統一的な見解が存在する場合は、それに基づき記述されるのが検定基準の一つだ。
藤田氏　発行済みの教科書への対応は。
萩生田光一文部科学相　答弁書を踏まえ、発行会社が訂正を検討する。基準に則した記述となるよう適切に対応したい。

関連報道(『中日』紙 2021.5.11)

続・つぶれそう訪韓記 ㉔

日本で抱いていた

イメージとの違い、次々

時代感ずる焼き肉店で

野崎佳史

ドンドンドンというノックで目が覚めると、集合時間を一〇分もオーバーしていました。

チウンさん親子の夢を見て、いい気持ちになってしまい寝坊してしまったようです。慌てて廊下に飛び出すと女性陣三人は、すっかりラフな服装に着替えて待ちくたびれた顔で睨まれてしまいました。

「ごめんさない、うたた寝してしまって」

と謝りましたが、チウンさん親子の夢を見ていたことは僕の胸にしまっておくことにしました。

ここはソウル市の麻浦（マポ）という地区で新しい街と古い街並みが混合している場所とは違い、オフィスビルと若者向けのお店が点在する新開地！といった所。モーテルの横に一軒だけ古くて味のある焼き肉屋がありましたが、韓国最後の夜だから、麻浦をブラブラしながら、これぞコリア！というような美味しいものを食べようと街の中を品定め。

昼食をとってから買い物でソウルをあちこち歩き回ったので、僕たちのお腹がペコペコ。お洒落なデザインのカルビ屋さん、変わった創作料理など魅力的な店がたくさんありましたが、なんでしょう？シャレた店は足がすくんでしまいます。二時間ぐらい徘徊して結局、最初に見つけたモーテルの横の古くて味のある焼き肉屋さんに入りました。

店内の置物に帽子を被せたら人みたいになった！

中に入ると4人掛けの机が四つ並び、壁には所狭しと韓国ビールのポスターやハングルで書かれたメニューが貼られていました。壁は焼き肉の煙と油で色が変色し、時代を感じます。中年の夫婦二人で調理場を切り盛りしているようで、店の入口で立っている僕たちを席に案内してくれました。

残り三つの席は若いカップル、女性同士、ビジネスマングループが座り、カルビを食べながら楽しそうにお話しています。麻浦という街は日本人向けの観光スポットがないからだと思うのですが、歩いていても日本人に出会うことはなく、日本語で解説する必要もないため、オール韓国語でメニューが表示されています。よって僕たちは注文ができません。よって無言になります。みなさん、こういう時の必殺技はですね、隣の席を見て「同じ物を下さい！」と言うんですよ。いかにも初めからあれが食べたかったような顔をするんですね。ところが！時々困ってしまうのが「同じ物を下さい！」が通じない場合です。隣の席の食べ物を何度も指すわけにもいかず、持参した韓国ブックをめくっていると、

「日本の方ですか？」

と声がします。ふり返ると後ろのテーブルで食事をしていた女性の一人が、

「ワタシ、日本語少し分かりますから、通訳しますよ！」

と助け船を出してくれました。何とお優しいお方でしょう。正直に言いますと隣の席の方は豆腐チゲ（鍋）を食べていて焼き肉を食べたかった僕たちは言葉が通じないため、「同じ物でいいか」と諦めていたところでした。

僕たちが泊まったモーテル

夜の麻浦！若者の街

麻浦区はオフィスビルが立ち並ぶ新開地！

焼肉屋で記念撮影！

カルビの味は最高でした！

モーテルの隣の焼肉屋さん。古くて味があった！

「遠慮なく言って下さいね」と言っていただいたので、

「それじゃあカルビとミノとテールスープ、それから・・」と伝え、頼んだ品が次々と亭主に伝わっていきます。一通り注文を終えると、

「追加があったら　また言って下さいね」

と言ってくれました。お礼をいい、女性が席を離れるとキャプテンつばさが、

「韓国の方って　日本人のことが嫌いだというイメージが強かったし、私の友達も同じ考えを持ってると思うけど、全然違いますね！」

と言ったので、

「でしょ？　僕は韓国に来て嫌な思いをしたことがないんだよー」

と応えました。

「もし日本のお店に韓国人が入って来て、注文に困っていたら、自分から何か困ってますか？って声かけられる？」

って聞いてみると、ＡＫＢまゆゆが、

「しませんね！」

と応えます。するとマザーテレサ大熊さんが、

「そういう所は見習いたいね」

と言いました。

しばらくすると注文したお肉や野菜が次々に登場！　店内に漂う焼き肉の匂いでお腹の減り具合がＭＡＸになっていたので、早速焼きます。

ジュウゥという音と同時に煙が上がって肉がこんがりと焼けていきます。焼き上がるとすぐに箸で取り合いになってあっという間に肉がなくなっていきます。先ほどの女性は僕たちが何か困っていないかと何度も僕たちの席を覗いてくれます。本当にいい人に出会いました。

同じ席で一緒にお話をしたかったけど、連れ合いの方とずいぶん話し込んでいたので声かえけを遠慮してしましました。

店内の片隅にラジオが置いてあり、スピーカーから韓国演歌が流れていて、小さい頃に両親に連れていってもらった場末の定食屋で聴いた野球中継を思い出し、綺麗なお店もたまにはいいけど、こうい

う風景をいつまでも残して欲しいナーと思いました。
追加注文は自分たちで何とかこなし、段々とお腹がふくれていた頃、女性が席にやってきて、
「私たちもう帰りますけど何かお店の方に伝えることがあればどうぞ」
と最後まで気を遣って頂いたので、
「では、ここの焼き肉は今まで食べた韓国料理の中でいちばん美味しかったです。来年ソウルに来たとき必ずまた寄りますから僕たちのことを覚えていて下さいね！」
と言い、通訳してもらうと、それほど愛想のなかった亭主が満面の笑顔で、
「是非、お待ちしてますよ。」
と応えてくれました。
女性にお礼を言うと、名刺を差し出して、
「何か困ったら、ココに電話下さい」
と最後の最後まで優しく寄り添っていただいたので、
「本当にありがとうございました。また会いましょう！」
と握手をしてお別れしました。

（続く）

ごあんない

少女たちの戦争

「青春のすべてが戦争だった―」

《ピースあいち 夏の企画展》

1945年8月15日。女学生としてその日を迎えた世代は、1931年の満州事変の頃に生まれました。15年戦争とも呼ばれた戦火の年月に、人生の歩みを丸ごとのみこまれたのです。戦争が激しさを増すにつれて学校教育は変質し、少女たちは銃後の働き手として、危険な軍需工場へと動員されていきました。「日本はどうなってしまうの？」「一体何のため？」―そんな疑いさえ抱かず、青春の夢を奪われ命までも奪われた少女たち。その時、ここ名古屋ではどんなことが起きていたのでしょうか。
第1部では、名古屋大空襲を描いたマンガ『あとかたの街』、第2部では学園史などをもとに、戦争に組み込まれてゆく愛知の女学生たちの姿をたどります。

（展示内容）

◉第1部 12歳の少女がみた戦争―

・おざわゆき「あとかたの街」（講談社BE・LOVE コミック全5巻）から選んだ15場面
・戦時下の少女の暮らし
失われてゆく夢／お国のために／困りごと

◉第2部 愛知の女学生たち

・戦時下の学校制度
・女子教育の目的は良妻賢母
「お国のために」「銃後を守る」／英語は禁止された／制服がスカートからモンペになった／空襲の中で行われた卒業式／証言など
・少女たちの勤労動員
不足する労働力として、子どもと女性が動員された／女子学徒の仕事―軍需品の生産・市電の車掌／東南海地震と学徒動員／熱田空襲と学徒動員／豊川海軍工廠と学徒動員／証言など
・学校に爆弾が落ちた日
名古屋市立第三高等女学校（現旭丘高校）／愛知県立第一高等女学校（現明和高校）／金城女子専門学校（現金城学院高等学校）
・現代の若者たちの活動
金城学院中学校・高等学校／東邦高等学校／椙山女学園中学校・高等学校／同朋高等学校／愛知県高校生フェスティバル

2021年7月13日(火)～9月25日(土)

開館時間 11:00～16:00（最終日は15:00まで）
休 館 日 日曜日・月曜日
入 館 料 大人300円 小中高生100円　協力：講談社／BE・LOVE

［博物館相当施設］
戦争と平和の資料館 ピースあいち
〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820
TEL&FAX 052-602-4222

新たな問題意識で

『朝鮮通信使、尾張路の旅』増補ノート

朝鮮通信使を迎える鳴海宿

「千代倉家日記」から (10)

堀崎嘉明

翻刻なった日記

昨年、「千代倉家日記」の翻刻文（宝永二年〈1705〉～大正二年〈1913〉）を収めたDVDが作られた。今までの寛文八年（1668）からのもの（『下里知足の文事の研究』所載、2013）と合わせると、全日記（約250年分）が読み取れる。千代倉は下郷家の屋号で、下里家（3代から下郷に改称）が桑名から鳴海に移ったのは慶長二年（1597）のこと、酒造業を家業に銘酒玉の井を江戸店や酒田へ売りさばき、財をなした鳴海宿一の勢家である。

日記は同家の当主により代々書き継がれたもの、翻刻は森川　昭氏（東大名誉教授）の50年に及ぶ畢生の仕事である。氏の主たる関心・目的は下郷家と松尾芭蕉との交流・影響を探るものとはいえ、文事だけでなく政治・社会・風俗などの記述も翻刻対象とされ、下郷家の研究に止まらず鳴海地域の生活を読み取るうえで欠かせない基本史料である。なお当日記は「東海地方朝鮮通信使資料目録」には未収載で、鳴海宿での新たな朝鮮通信使像が得られる貴重な史料でもある。

藩の監督のもと

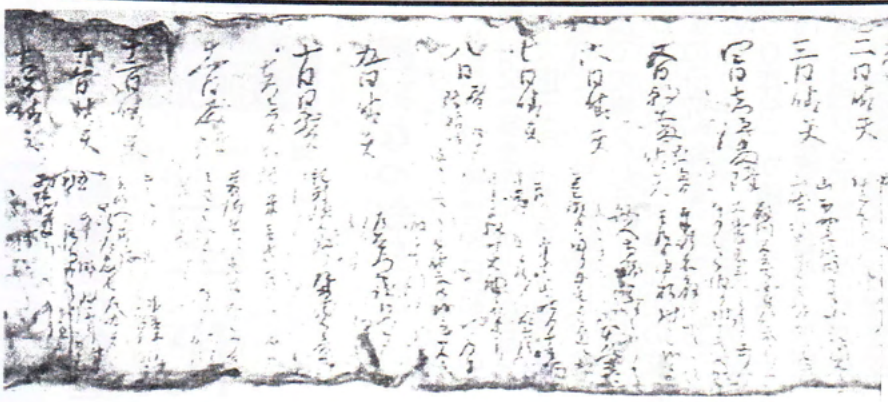
日記（「知足日記」、2代当主）に朝鮮使節の鳴海来訪記事が登場するのは天和度（1682年）が最初である。尾張藩の使節に向けた応接準備は来日予定約9ヶ月前の前年十二月十一日に始まり、名古屋・岡崎間の鳴海宿における昼食賄いを担当する尾張藩では、本陣と二名の庄屋役ら鳴海宿村の責任者に名古屋藩庁への出向を求めた。

その後の準備は訪鳴3ヶ月前の翌年五月から本格化、十八日と二十四日に両庄屋が前年に続き郡奉行から名古屋に呼び出され、前明暦度の実施内容の聴き取りを受けた。七月は六日に国・郡両奉行ら担当役人10人ほどが宿場の下見に訪れ、十八日には全御馳走懸りが打ち合わせに鳴海を訪れた。そうした中で二十三日に「朝鮮人献上の御馬、御鷹、十七日に大坂に到着」を知らせる道中触れが届くと宿内は一気に緊張、準備作業に拍車がかった。

それからは使節団の来訪する八月十一日まで毎日、尾張藩士は名古屋と鳴海宿を交替で往復、新高札場の設営や環境整備などを指示、使節団の到着二日前には全担当役人が集結した。また火急の用なのか翌日は国奉行林一郎左衛門が一度は名古屋に帰るもすぐに鳴海へ戻り、御馳走の準備に陣頭指揮で当たるなど作業は夜中まで及んだ。

この間に阿野茶屋の設営検分も終わったのか、八月七日に尾張藩士が隣村阿野から帰ったとあるものの、日記での藩士の動きは名古屋・鳴海間の頻繁な往復の記述だけで、鳴海宿での仕事内容はほとんど書かれていない。というのも任務が現地での指示や監督だけで、実際の準備作業は宿や近隣の村人びとが担っていた。

寛文八年本文冒頭



千代倉家日記表紙（貞享二年）

寛文年日記

全宿、近隣の支えで

ここでいったん日記を七月七日に戻すと、この日、鳴海宿では藩の要請を引き受けるに当って藩庁に「町中の願書」を提出したことが見える。内容は不明ながらも、今後の応接費用への手当強化を要望したと思われる。

準備作業が佳境を迎えるのは同月十五日で、近隣の大高・星崎両村の人足により作事用材木が運ばれると、二十九日に下郷家の玄関柱工事、続いて26畳の畳差し替えが行われた。

こうしたなか「八月五日、朝鮮人聞次（ききつぎ）へ」とあり、下郷家では九兵衛と孫右衛門を八幡（近江）・今須（美濃、関ヶ原町）へ派遣、独自に通信使の情報収集に着手します。そして使節が来訪する二日前に対馬藩士が「宿割り」に来訪、また前日には早朝から近在の村びと715人が手伝いに集結、準備作業は大詰めを迎える。

日記ではこうして迎えた使節到着日の様子を次のように紹介している。

〇十一日　晴天　宗対馬守様五つ半（九時半頃）に御着。御振舞ひ、御請け。

官人（通信使）四つ（十時頃）に着。対馬様衆馬上（ばじょう）分は金右衛門（庄屋）所で御振廻。歩行足軽衆二百人余人は喜三郎、平七、又七（旅籠）所で御振舞。

若党中間（ちゅうげん）は七十軒の宿々にて仕出し、旅籠に御振廻。

九つ（午後零時）過ぎに発つ。少々の夕立降る。

給仕人二百六十人来る、鶏三十羽、村々より参る。対馬守様から銀二枚下さる。

この日は下郷邸をはじめ全旅籠、宿を挙げた昼食の応接がなされ、近隣から総勢千人もの村人も支援、鶏などの食材を寄せている。

入念な情報収集

それと日記には使節団の移動情報が書き込まれている。例えば「亀世日記」（4代当主）延享五年（1748）の前書きには、使節団の朝鮮出国時（延享四年十一月二十八日）から鳴海到着（同五年五月八日）までの日程が

〇去年秋　朝鮮都発足、釜山浦出船（2／15）、対府へ到着（2／24）
〇朝鮮人対府出帆（3／17）、壱岐勝本着（同日）、筑前藍島着（4／1）、長門赤間関着（4／4）
〇防州上ノ関着（閏4／7）、芸州蒲刈着（4／10）、備前牛窓着（4／14）
〇大坂西本願寺旅館到着（4／20）（後略）

と、時系列にまとめ書きされている。

これらは京都所司代から問屋場宛の御触状で時々刻々と伝えられ、その都度に書き留められているもので、使節団の移動情報は御馳走場所に必要不可欠なものと周知徹底が図られていたことが分かる。こうした幕府提供の情報と共に前述の日程記述箇所に続いて、「四月二十三日　晴天　丹勘蔵、権兵衛、朝鮮人聞合に大坂へ行。ひのや庄左衛門殿へ状添」と見える筆も注目される。この「ひのや庄左衛門」とは知足の時代から昵懇であった井原（西鶴）家で、大坂の行動二当たって、その縁に頼るべく同家宛て書状をあつらえたと思われる。

この「聞合」とは先天和度で行われた「聞次」と同じ意味で、使節が大坂到着との報を受け直ちに送ったのであろう。さらに、次宝暦度の往路でも下郷家は大津・起、復路は金谷（駿河）へ朝鮮使節応接のため使用人を送り情報収集に努めていたことも分かる。その目的を探るうえで注目されるのが、「朝鮮人聞合大津宿へ参り候弥吉、御宿割衆に今須宿にて御帳面借り写し来たり。（中略）今夕私宅にて内宿割する」（「和菊日記」、5代当主）と筆が残す箇所である。

特に今須は幕府の情報中継地で、弥吉は大津宿から機を見て対馬藩関係筋と接触を図り、宿割帳面を今須で借りて写し取ることに成功したとある。

本来ならば宿割資料などは使節到着の二日前に対馬藩担当者から貰い受け、下郷家など宿の首脳陣を挙げ必死に写し、大勢の来訪者の振舞場所を短時間で割り振るのが通例であった。とはいえ、それはとても難作業で、これまでも到着日の朝までかかって何とか間に合わせるのが実情であった。

続く日記には情報の事前入手で「首尾好く」宿割り作業ができ、「はなはだ機嫌」と記されている。下郷家での独自な情報収集への執念が効を奏し、一同胸をなで下ろした場面であった。

全国知事会の提言を実現しよう！

外国軍が自国に駐留するときに問題となるのが、自国の法律を適用するかどうかです。駐留する側からすれば、できるだけ行動を制約されたくない。駐留させる側からすれば、自国の領土内にいる以上は、自国の法律を守らせたい。そのせめぎ合いの中で、外国軍にどこまで自国の法律の例外を認めるかを定めたのが、地位協定です。したがって、地位とは特権といいかえることができます。駐留外国軍へ自国の法適用はその国の主権と民度が問われる課題といえます。

その意味で、日米地位協定は日本の主権が著しく制約されている不平等なもので、締結以来一度も改定をされていません。

2018年7月と2020年11月、全国知事会は「日米地位協定の抜本的な見直し」を日米両政府に提言することを全会一致で決めました。

愛知県議会が「日米地位協定の抜本的な改定を求める意見書」決議し、政府に対して提出することを求める請願運動に取り組みます。

日米地位協定の抜本的改定を！

愛知県議会への請願署名運動スタート集会

6月13日（日）　13:30～（開場13:00）

■会場：「鯱城ホール」名古屋市中区栄一丁目23番13号　伏見ライフプラザ5階

地下鉄東山線「伏見駅」6番出口より南へ徒歩7分/地下鉄鶴舞線「大須観音駅」4番出口より北へ徒歩7分

■講演：沖縄県知事公室基地対策課

参加費無料

■主催：戦争をさせない1000人委員会 あいち・あいち沖縄会議

【連絡先】名古屋市熱田区金山町1-14-18　ワークライフプラザれあろ5F　あいち平和フォーラム気付
TEL：052-678-3111/FAX：052-678-3123

鑑賞のおすすめ 朝鮮文芸

『土のスプーン』出の弱者に光あてる
多様な他者を認める社会に

【その６３】
韓国映画
『チング 永遠の絆（친구 2）』
（2013年）
監督：クァク・キョンテク

伊藤 一郎
(koreamovieculture@yahoo.co.jp)
朝鮮文化を知る会

本作品は十二年前（二〇〇一年）に発表された名作映画『友へ チング』の続編にあたる。前回と同様、舞台は釜山である。釜山方言に触れたい人にとっては、前作同様に最適の作品である。映画のあらすじは以下のとおり。

前作の『友へ チング』から十七年間、主人公のジュンソク（ユ・オソン）は親友ドンス（チャン・ドンゴン）殺害容疑を一身に背負い刑務所に服役した。ジュンソクは出所後、刑務所で知り合った子分とともに故郷の釜山に戻るが、ジュンソクの属していた組織は狡猾な副会長のウンギに牛耳られ、ジュンソクは厄介者扱いされた。

ジュンソクの父はもともと組織のトップであり、現在の組織の会長であったが、ウンギはジュンソクや会長の周囲の者たちをジュンソクの出所前に粛清していた。

ジュンソクは刑務所で出会った親友ドンスの隠し子のソンフン（キム・ウビン）を弟分にして、副会長のウンギグループとの抗争をおこなっていく。ジュンソクとソンフンは当初は意気投合していたが、その後二人は非常な運命に翻弄されていく。

本作品は日本より圧倒的に財閥の独占資本が支配する韓国社会を背景に描かれた。生まれた時から「金のスプーン」「銀のスプーン」「土のスプーン」の分類が理不尽にもされ、「土のスプーン」に生まれた場合には行き場所のない絶望的な状況を子供時代から悟らされる。弱者が容赦なく切り捨てられる非常な競争社会の中で、格差社会が見過ごされた人々に光を当てたのが本作である。

かつての雑で緩い韓国の街を背景に荒っぽい人間性が強調された前作に対して今回の『チング 永遠の絆』は、韓流ドラマにも登場しそうな今風の若者たちが主人公として登場する。『友へ チング』『チング 永遠の絆』それぞれの主な登場人物の世代は異なるが、韓国のいわゆるカンペ（やくざ）を描いた映画である。

登場人物にはそれぞれの生い立ちがある。生まれつきの条件によって世の中に居場所のない人々が、家族などから得られなかった愛情を求めて行き着く先としてカンペの世界が描かれている。

『友へ チング』では、葬式屋を営む家で死体洗いに嫌気をさした息子が実家を飛び出し、カンペの世界に入る姿が描かれている。彼らは学校の教師に疎んじられ、居場所がなく、そしてたとえ他人の愛情でも受けたいとの一心でその世界に入っていく。そして親子の愛情を超えた友人間の情が濃く描かれている。特に前作『友へ チング』は多くの韓国人の心を捉えたようである。

朝鮮学校出身の友人からは『友へ チング』は日本でいう昭和の学生のようだとのコメントがあった。『友へ チング』を見ると学生時代を思い出すそうである。筆者の周囲にいる一九七〇年代以前に生まれた韓国人にとって「チング（日本語訳：友達）」という言葉は特別の意味を持つようである。

明らかに日本の「友達」とは異なり他人でありながら家族や親兄弟に匹敵する意味であることを感じてきた。一方で通貨危機以後、明らかに以前よりも小綺麗になった韓国の街並みとは裏腹に、無味乾燥な冷たさや寂しさを感じるのは筆者だけであろうか。

「チング」とは対照的な人と人との繋がりの希薄さだけでなく、男女間や世代間での対立や排除さえ生じている。映画に描かれた「男らしさ」は今日の韓国社会では場合によっては非難の対象になる可能性があるとのことである。また、音楽を始め、映画、テレビ番組への文化的な検閲のようなふるまいやそれに対する非難合戦がネットやSNS上で行われているようである。

これまで文化の一部をなしていた表現の自由すら一部の人々の自認する「正義」によって大勢による一方的な非難の対象となっている。男女のグループ間でされているSNSのやりとりを少しのぞいてみたが、見るに絶えない罵詈雑言が双方から発信されているのを目撃し、すぐに見るのをやめた。

発言の内容や表現から双方ともに正義がないことは明らかである。目的がわからない消耗戦に多くの韓国人が熱中している現実をみて、かつてのゆるい韓国社会ではないことを感じ取った。最近の韓国関連の話題やニュースを見るたび、以前のようなおおらかな寛容さが社会全体で失われ、息苦しさを感じる。現在の韓国は分断の社会である。男女の間、友人の間の関係が以前よりも薄くなり、また対立関係の様相さえ呈している。

いまの韓国社会は『チング 永遠の絆』の前作『友へ チング』が公開された時代とは明らかに変わっており、人と人の間の情も変わっている。非人間的な競争、あるいは故意により作り出された格差による民衆間の分断を喜ぶのは少数の権力者、支配者である。民衆の側から進んで民衆間の分断を招くカテゴリーを設けて、一部のカテゴリーの人々を排除したり対立を煽るような愚かな行為はやめるべきである。

性別、年齢、社会的身分などのカテゴリーを超えた多様な他者を、互いに認めることのできる寛容で余裕のある韓国社会となることを切に願う。

編集部から

月刊『日本と朝鮮（愛知版）』は、日・韓・朝の市民が往き来する、紙上交差点をめざしています

●投稿のおすすめ

話題、証言、時評、書評、資料・記録の紹介。日韓・日朝関係についての提案・意見。身近にある諸交流の企画・情報を、歓迎します。文章でも写真でも結構です。

取材を依頼される場合はその旨お知らせ下さい。

毎月の締め切りは、15日ごろです。

メールでの投稿をおすすめします。

なお、本会報の送配布先についても、ご意見をいただいています。

『統一すれば、死んでもいい』
自主と民主化で統一を

第6話　アイゴー　分断史　(続)

金　宗鎭

第一幕＝統一の高波
第二幕＝軍事ファッショ
第三幕＝米中テタント
　1　ニクソン訪中と南北コリア
【以上、前号。
以下、第三幕のつづき】

2　朝鮮の「四大軍事路線」

金日成「アメリカの敵対的な態度のために、正直に言うが、われわれは常に戦えている。そのことを隠さない。(ニューヨークタイムズの取材に答える)」。

即ち全人民の武装化、全土の要塞化、全軍の幹部化、全軍の近代化である。

ホリングワース中将「強力な攻勢により、九日間で戦争に勝利する」。

彼はイムジン江の南岸に立って叫んだ。

「北の前線にいる奴らはどいつもこいつも殺してやる。俺たちは一インチだって引かないぞ」（一九七三年）。

金日成「もし敵が無謀にも戦争を仕掛けるならば、われわれは断固として戦争でこたえ、侵略者たちを完全に破滅させる。この戦争においてわれわれは非武装地帯のみを失い、国家統一はなるだろう」。

朴正熙「国家を戦時体制に置く。一つ、国家保安法の強化、二つ、民間防衛法で十七歳から五十歳までのすべての男子による準軍事組織を創設する、三つ目は新たな防衛税を設ける」。

キッシンジャー「(韓国のプルトニウム生産、核の専門家をひそかに集めることについて)北朝鮮と日本に与える衝撃が大きい。この分野における韓国の努力を思い止まらせ、・・阻止する」とソウルの米大使館に電文を送る（一九七四年）。

朴正熙「一九八一年に核爆弾の開発を完了させることが出来た。そうすれば、金日成はあえて南に侵攻することが出来なくなる」。

シュレジンジャー国防長官「(サイゴン陥落に伴う、韓国の懸念にこたえて、北朝鮮に脅しをかける)核戦闘爆撃機の参加のもとで、チームスピリット76を実施する」。

3　ポプラの木事件

板門店で、米軍がポプラの木を切ることに抗して乱闘が発生。（一九七六年八月十八日）

人民軍、米軍のオノを奪い取り、二人の米軍を殴り殺す。

キッシンジャー「北朝鮮人の血が流されなければならない」。

朴正熙「気が狂った金日成一味のこの野蛮な行為は許すことができない」。

許錟（ホ・ダン）外相「板門店の共同警備区域における、われわれに対する意図的な挑発・・戦争の導火線に直接火をつける企て」と演説。

米軍はポプラの木を切るために、米兵三十人、テコンドー名手の韓国兵六四人、ヘリコプター二十一機、コブラヘリ七機、後方にB52戦略爆撃機、F4戦闘機、ミッドウ

エイ空母を控えさせた。

金日成「事件は遺憾、双方が努力して将来の紛争を避けることを提唱する」。

ホワイトハウスの会議。（朴正熙の態度について）スナイダー大使「偏狭でイスラエルのような脅迫観念を持っている。それは、永らく韓国に与えてきた保護に由来している面もある。朴は北朝鮮の挑発にどう対応するかを決める際に、われわれを考慮に入れる。コストを無視するか軽視する傾向がある」。

4　東ドイツ・ホーネッカー書記長、朝鮮訪問（一九七七年）

ホーネッカー「朴正熙政権の動向は？」

金日成「われわれが日本を相手に戦っているあいだに、朴正熙たちは日本軍に仕えていた。一九六一年、朴政権の権力掌握は米国がしたのだ。韓国の学生らはわれわれを支持している」。

ホーネッカー「東ドイツは韓国と関係を持たない」。

▽　▽

ホーネッカー「中ソ論争で、中国側に傾いているのではないか？」

金日成「われわれは中国の言うなりにならない。中ソ論争にも加担しない。『朝鮮の修正主義者』たちと国境地域で拡声器で朝五時から深夜まで非難したが、軍に発砲しないように命令した」。

ホーネッカー「米国と日本の動きは？」

金日成「日本は軍国主義復活の懸念はあるが、第二次世界大戦と米国の原爆投下から教訓を学んだので、以前のようではない。・・・カーターには失望した。撤退と言いつつ、実際は毎日武器を輸出している」。

※筆者は一九七七年、ホーネッカーを迎えるピョンヤン市民の大歓迎の中にあった。

第四幕　カーター大統領の米軍撤退計画

1　ベトナム戦争の敗北を受けて

カーター「米軍は韓国から撤退する」。

モンデール副大統領「日本は、日本の安全に影響するかを深く懸念した」。

在韓米軍司令官「米地上軍の撤退が行われるなら、戦争を招くだろう」。

カーター「われわれは韓国に七〇〇個もの核兵器を所有しているが、一個の必要性も認められない」。

金日成「米国との対話の道をひらく」。

・・米議会への公開状を送る

・・停戦協定を平和条約に変える

・・パキスタン大統領を通じて、カーターに親書を送る。

カーター「米国市民の北朝鮮への旅行禁止措置を解く」。

・・北朝鮮の国連代表を米国のパーティーに招待

・・米ヘリコプターが人民軍に撃墜された事件に、「飛行ミスだった」と、対決を避ける。

金日成「カーターに親書を送り続ける」。

・・ガボンのボンゴ大統領、ユーゴのチトー大統領、ルーマニアのチャウシェスク大統領に託す（一九七七年、一九七八年）。

2　文世光、朴大統領を狙撃

文世光（在日朝鮮人）の自白「大阪に住む。年は二十二歳」。「在日朝鮮総連の指示に従った」。「交番から三八口径の拳銃を盗み出した」。「八月六日韓国に飛び、最高級ホテルにチェックイン、運転手付きの車を借り上げ、大統領を暗殺するため記念大会式場に向かった」、「大ホールの中に入り席を見つけた。朴正熙の演説の中ほどに、中央通路を駆け下りて、訓練を受けた通り、銃の狙いを定めて撃った」。大統領夫人死亡。「私は『革命戦士』だ」。

一九七四年十二月二十日、絞首刑に処された。

3　朴大統領の日記（一九七五年八月一五日）

「一年前のこの日・・・お前の生涯で最後の青瓦台からの出発だった。・・・あれから一年経った。この一年の間、私はひそかに一人で、数え切れないほど多く泣いた」。

※筆者のコメント＝素性の知れない在日韓国人が、大統領の演説会場に入場することは、難しい。

4　KCIA部長、朴正熙を撃つ

朴正熙「君は国内の大混乱を抑えることが出来ないのか」。

車智徹警護室長「学生やスト労働者をきびしく弾圧しろ！」

金載圭KCIA部長「この虫けら共！」と詰め寄り、車智徹、朴正熙を撃つ。

モデルと歌手の二人の女性は、その後どうなったか知れない。

バンス国務長官、葬儀に参加「（驚いた）ソウルで涙を流した者はいない」。

※暗殺者の動機は十分に解明されないまま、死刑。（米国が共謀したとの「憶測」が流れた）

5　全斗煥保安司令部（大統領警護室、KCIAを通って監視）権力奪取

グライスティーン米大使「憲政の秩序に立ち返るように要請する」。

全斗煥「個人的野心は抱いていない」。

米大使「（彼は）信頼できず・・不謹慎で・・残忍で・・嘘つき」。「私の知るなかで最も抜け目のない、計算高く、政治的に利口な人物の一人」と見なす。

※　※

全斗煥「ピョンヤン学生たちを背後で操縦しており、北朝鮮が南を攻撃する決定的な時がやってきたかも知れない」。

在韓米軍司令官「（ワシントンに）彼の青瓦台入りを正当化するための口実」とワシントンに報告。

米大使「軍部がほとんど国全体の支配権を本格的に握った」とワシントンに報告。

全斗煥「金大中の復活を阻止せよ。光州の市民を煽り立てた」。

軍事裁判で死刑に。

6　学生デモ

学生デモ「選挙を要求する！」

全斗煥「少数の急進派学生、教授、野心を抱く政治家が引き起こしている」。

ウィッカム在韓米軍司令官「軍隊が市民弾圧に使われれば、事態はさらに悪化する」。

全斗煥「司令官、ピョンヤンが学生たちを操作しており、北が南を攻撃する時がやって来たかも知れない」。

ウィッカム「（全斗煥が青瓦台入りを正当化する口実だな）」

全斗煥「学生指導者、大物政治家を逮捕せよ。（金大中、金泳三，金鍾泌）」。「国会を閉鎖、大学キャンパスを閉鎖せよ」。

7　光州市民蜂起（一九八〇年）

光州の学生デモ「全斗煥ヤメロ！」

全斗煥「特殊部隊投入せよ！」

グラスティーン「（ワシントンに）大規模な暴動が起きた」

韓国軍第二十師団、特殊部隊の「光州虐殺」と呼ばれる事態となる。（当局、二四〇人死亡を発表。一九五五年、市民側は、三万余人死傷と発表）

8　金大中死刑判決

全斗煥「光州暴動は金大中が企てた。軍事裁判にかけろ」。

米大使「こじつけだ」。

軍事法廷「死刑に処する」。

カーター政権「金大中を自由にしろ」（選挙でレーガンに敗れる）。

レーガン大統領「全斗煥大統領の訪米で話し合う」。

全斗煥「戒厳令を解除し、金大中の死刑を終身刑にする」。

レーガン「私たちは自由を守るというあなたの公約を共有しています」。

全斗煥「チームスピリット、韓米二十万人の軍事演習に同意します」。

ソウル大学生「米国は新植民地主義者、帝国主義者」と八〇%が韓米関係を語る。

9　全斗煥、盧泰愚大統領の贈収賄罪

検察「全斗煥の所有する一万ウォンの札束の山、六一億ウォンを発見した」。

全斗煥「盧泰愚に一九〇〇億ウォン渡した」。

「二億六五〇〇万ドルを退任時、所持した」。

盧泰愚「財産は六二万ドルです」。これは在任中につくりあげた、と認めた賄賂の一千分の一にすぎない。

「金大中に二十億ウォン(二五〇万ドル)、金泳三に数千億ウォンを渡した」。

※　※

善隣交流

★全国各地からの通信

日朝協会

【東京版】　二〇二一・五・一

○福島からの通信＝赤間　守

○朝鮮人と結婚した日本人(十)～母の話＝梁裕河

○韓国映画『マルモイ』／祖国のことばを命がけで守った朝鮮の人たち／植民地支配で日本は何をしたかを知る＝昆弘見

【大阪版】　二〇二一・五・十

○第四次韓流ブーム／国家を超え日韓の市民交流へ

○河野律さんを偲ぶ

○2つの異なる判決(韓国ソウル中央地裁一・八と四・二一)の理解のために　ほか

【石川版】　二〇二一・五・一

○「日本メディアは韓国・朝鮮をどう伝えたか」／須藤春夫さんの講演を聞いて＝新井田嘉弘　ほか

○【別冊】大森定嗣さんへ思い出の一言

【福岡版】　二〇二一・五・一

○【この人に聞く】李英雄さん／「日韓の懸け橋」に尽力

○【あれこれコリア】臨時首都記念館(釜山)＝田中美由紀

○【これでいいのかニッポン】死語になったか「説明責任」　ほか

【群馬版】　二〇二一・五・一

○信濃川朝鮮人虐殺事件(関係地図など)

○【歴史の現場から】上信沿線途中下車①＝内藤真治

○【韓国映画最新情報】ザ・バッド　ガイズ＝渡辺マツ代　ほか

【埼玉版】　二〇二一・五・一

○渋沢栄一、その光と影＝山口　勇

○蕨空襲の平和祈念碑

○福島原発の汚染水を放出／韓国、政府と国民の深刻な憂慮　ほか

京都　高麗美術館報

(二〇二一・五　公益財団法人高麗美術館)

○【表紙】長生図屏風　八曲一双

○「朝鮮の仏さま」展によせて＝鄭喜斗

○【座談会】有光教一先生、上田正昭先生の想い出を語る　ほか

いま面白い市民運動の情報誌

グループ紙誌 拝見

●日中友好新聞・愛知版
（第二九六号＝二〇二一年五月一日　発行＝日中友好協会愛知県連／名古屋市千種区
○私の帰国と隔離生活＝尚游さん
○漢詩を読む会＝木俣　博
○【中国ものしりコーナー】呉越同舟は、春秋時代の敵国同士の「呉」「越」の故事から　ほか

●セイブ・イラクチルドレン名古屋
（No.一七＝二〇二一・四　発行＝NPO法人セイブ・イラクチルドレン名古屋／名古屋市中区）
○二〇二〇年の医療研修報告
○文明の十字路からの医師と過ごした日々＝中村栄男医師
○今までに愛知で研修を受けた医療者たち　ほか

●草の根
（第四二五号＝二〇二一・五・六　発行＝原水爆禁止愛知県協議会／名古屋市東区）
○二〇二一あいち平和行進日程
○県民の会発足で　署名のさらなる推進を
○半田市長から日本政府へ／禁止条約参加への要請書　ほか

●平和新聞・愛知版
（二〇二一・五・一五　編集＝愛知県平和委員会／名古屋市東区）
○青年・学生部「若者憲法アンケート」／9条2項「変えるべきでない」が「変える」を大きく上回る
○憲法施行七四年記念市民のつどい／憲法守る決意新たに
○岐阜基地　爆音被害をなくせ！／江南市、犬山市、扶桑町に要請書を提出　ほか

●あま東部
（No.一四三＝二〇二一・五・一六　発行＝あま東部平和委員会／海部郡大治町）
○県平和委「平和連続市民講座」／石川康宏さん平和問題を縦横に
○安保法制違憲訴訟／9条の歯止めがなくなった日本の行方
○「あいち平和映画祭二〇二一」に向けて／実行委員間の独り言＝須之内洋文　ほか

●ポラム
（第一一六号＝二〇二一・五・一五　発行＝岐阜朝鮮初中級学校の子どもたちを支援するポラムの会／岐阜市長良）
○【教室から】好きな時間は？＝金玲華
○四月十八日　古墳群見学＝松井和子
○二〇二一年六月六日／岐阜朝鮮初中級学校六十周年を迎えて　ほか

●日本とユーラシア・愛知版
（二〇二一・五・一五　編集＝同協会愛知県連合会／名古屋市東区）
○全国・全世界に、平和の声を大きく発信しよう／「愛知民主会館　新たな活用と建設を」＝安原勝彦
○ロシアでの人権保障はどうなっている？／ロシアの憲法裁判から見たその実態の諸相＝杉浦一孝　ほか

●革新・愛知の会
（第三一一号＝二〇二一・五・十　発行＝平和・民主・革新の日本をめざす愛知の会／名古屋市熱田区）
○【インタビュー】水谷陽子さん／憲法は尊厳を求めてたたかう人の希望／当事者の思いに寄り添って　ほか

【表紙＝三浦雅子】

日本と朝鮮／愛知版
2021年 5月(449)号
■発行／日朝協会（発行責任者＝宮川泰彦）■ 昭和 28年 11月30日　第三種郵便物認可
■編集／日朝協会愛知県連合会事務局 ■464-0853　名古屋市千種区小松町6-9-1
■Tel・Fax＝052-731三9445　■Eメール／y-koide@mse.biglobe.ne.jp
■サイト＝http://www.aichi-niccho.com　／　■ ㊦振込先＝0840-9-27721